

令和4年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

65

福岡県立久留米高等学校

自己評価				
学校運営計画(4月)				評価(総合)
学校運営方針	(1)「行きたい」「行かせたい」「行ってよかった」と誰からも言われる学校を目指す。 (2)他者を尊重し、自ら考え、判断し、決定し、行動できる力を持った人材の基礎を育成する。 (3)職員一人一人が、育成すべき生徒像を明確に持ちながら、生徒の育成を図る。			B
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
新型コロナウイルス感染症の感染拡大によるオンライン授業をはじめ、ICTを活用した新たな学びについて実践を推進する好機となった。また、儀式や様々な学校行事についても、生徒・職員が昨年の経験をもとに意義や目的を再認識しながら協働し課題や困難の克服に努めて形作っていた。制限を強いられる中で教育活動は、生徒・職員にとって小さな工夫が大きな効果を生み出す契機となり、共に今後も相乗効果を得ることができるよう取り組んでいきたい。学校運営方針に掲げる、他者を尊重し、自ら考え、判断し、決定し、行動できる力を持った人材の基礎を育成するため、失敗を恐れず事に積極的に挑戦させ人間の成長を促し、生徒・保護者・地域から信頼される教育活動を展開したい。	主体的に適切な判断ができる資質・能力の育成を図り、失敗を恐れず物事に積極的に挑戦させることにより、生徒の人間の成長を促す。	教育活動において、生徒が自己決定し行動する機会を積極的に設定する。 ・生徒理解や生徒の人材育成に係る専門知識を得るために職員研修を行う。 ・「18歳成人」に係る必要な知識を身につけさせ、成人として自立した行動ができるようにする。		
	主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善をとおして、知識・技能の習得、思考力、判断力、表現力及び主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。	・観点別学習評価の適切な実践により指導と評価の一体化を図り、学力の伸長を図る。 ・学習内容に対する理解を深め、学習に対するモチベーションを高めることを目的として積極的にICTを活用する。		
	生徒理解に努め、安心・安全な学校生活を送れる環境の構築を目指す。	・転・退学者数の減少を目指す。 ・生徒との対話を生徒理解の手段の一つとして捉え、二者面談の充実を図る。 ・生徒の心身の健康を維持し、生徒が澁滞とした学校生活を送れるよう支援する。		
	生徒が自らの力で生き方を選択できるよう必要な資質・能力を身につけ、生徒が自分らしい生き方の実現を図るための支援を行う。	・生徒の進路意識を高揚するような情報及び機会を積極的に提供し、生徒が進路について主体的に考える態度を育成する。 ・生徒の将来のキャリア形成に係る進路課題解決に向けての支援を行う。		
	「英語を学びたい」という積極的な姿勢をさらに伸ばし、英語学習の背景にある文化に対する理解を深め、視野を広げ、国際感覚を養うことによりグローバル人材の育成を図る。	・3年間をとおして英語科の生徒全員がCEFRのB1レベル相当またはそれ以上英語力を身につけることを目標とする。 ・英語科における行事やNET及びEAS等の人材を積極的に活用しながら、必要な英語力と人材の育成を図る。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教科指導	学習に対する積極性と充実感を得られる生徒の育成	積極的に発言や質問のできる授業雰囲気確立と、学びの充実感を得られる授業を行う。 日常の予習・復習サイクルの確立と効果的な課題の活用による学びの充実を目指す。	B B	A
	新しいカリキュラムを意識した授業と評価の実践	考査だけでなく、授業中の表現力等を評価に反映させ、生徒のやる気を鼓舞する。 新観点別評価を導入することにより、生徒の強みを多面的に評価する。	A A	
	生徒募集と広報活動の充実	中学生向け各種イベントの運営を在校生主体で行うことで、本校に対する理解を深めてもらう。	A	
		英語科にしかない魅力的な行事や、セサンプランの充実した学習内容を広報活動を通してアピールする。	A	
・今年度から開始した観点別評価やパフォーマンステストの導入により、授業により積極的に参加する生徒が増えた。教科主任会を主催し、効果的な評価法について情報交換を行い、さらなる授業改善に繋げたい。生徒が積極的に授業に参加することで、考査の得点改善にも結びついている。研修課と協力して「授業アンケート」の内容と活用方法を検討し、アンケート評価の結果が職員の授業改善と生徒の学習改善につなげられるよう取り組む。 ・体験入学等では、今後も生徒が主体的に協動的に活動する姿をアピールしたい。				

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
B	A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
	項目ごとの評価 学校関係者評価委員会からの意見
A	・目標、具体的方策ともに評価できる。 ・観点別評価やパフォーマンステスト等は生徒が自ら行動することができる良い評価法だと思われる。 ・さらなる指導力の向上を目指してほしい。

進路指導	主体的に学ぶ生徒の育成	1・2年生においては、年1回以上の高大連携講座や各種セミナー・体験活動への参加を促す。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の将来のキャリア形成に係る進路課題解決に向けての支援としては、①課外②土曜セミナー③集中講座(令和3年度まで)の見直しを行った。①は教科・科目選択制の仕組み作りと実施、②は廃止とともにキャリア活(生徒が主体的に自身の進路や職業選択について学んだり体験したりする活動)の実施③は補習として実施した。次年度は、②のキャリア活において、より生徒が「自走」できるような仕組みを構築したい。 ・生徒の進路意識を高揚する情報及び機会を積極的に提供し、進路について主体的に考える態度を育成することについては、継続的に進路について考えるシート(紙またはオンライン)を進路課として作成したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の資質の見極めを確実なものにする必要がある。 ・キャリア活では体験の場をより多く設定し、自分の目指す方向を見出せるようにしてほしい。 ・課外や補習の時間を減らしたことが進路実績に影響しないよう工夫してほしい。 	
	進路実現に必要な資質・能力の育成	課外・補習の学習内容を生徒に明示することで、進路実現に必要な資質・能力をすべての教員が共有する。	A					A
	適切な情報の提供とよりよい組織づくり	卒業生講話や出前講座等を通して、進路について幅広く学び、その実現に必要な力を理解させる。	B					
		スタディサポートや模試の後は分析会を行い、生徒の現状を把握し、具体的方策を考える。	B					
生徒指導	「行きたい」「行かせたい」「行ってよかった」久留米高校の実現	爽やかな挨拶が飛び交い、部活動や学業において自己実現を図る久高生を育てる。	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年および教科担当の職員の協力のもと、転退学者の減少を図ることができた。今後も、日常的教育活動を丁寧に行い、やめない学校づくりを図っていく。 ・生徒の問題行動が昨年度より増加した。各学年団と協力し、早め早めの対応を図り改善していく。 ・登下校中の事故防止を図る必要がある。また、自転車通学生および保護者に対して、ヘルメット着用努力義務について周知を図っていく必要がある。 ・今後も、定期的な施設設備安全点検を行うことで、事故防止を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・久高生の明るい挨拶は好評である。今後も継続してほしい。 ・転退学者減少に向けてさらなる対策を図ってほしい。 ・成人年齢引き下げに係る指導の充実を図ってほしい。 ・部活動指導者の資質向上を図ってほしい。 	
		「転退学者減少」を全教職員で取り組み、安心安全な学校づくりを推進する。	A					
	主体的に判断できる資質能力の育成	成人年齢引き下げに伴う諸問題に対して、個人で対応できる力を身に付けさせる。	B	B				
		成人年齢引き下げに伴い、生徒の規範意識の向上と判断力の育成を図る。	C					
安心・安全な学校生活の構築	登下校中の事故防止およびマナー向上を図り、地域と共生する久高生を育成する。	B	B					
	部活動中の事故防止、適正運営を図るとともに、やめない部活動を実現する。	A						
特別活動等	体育祭・久高祭をととした、生徒の主体性の育成	コロナ禍での学校行事の在り方を再考し、可能な限り2大行事を実現させる。	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭および久高祭のいずれも実施することができ、生徒の主体性の涵養を図ることができた。コロナ禍での行事について、更なる創意工夫を行い、新たな久高文化の創造を図っていく。 ・すべての教師ですべての生徒を見守るなど、教師間の縦横の連携を密にとり、丁寧に対応していく。 ・「いじめのない学校」づくりを全教師一丸となって取り組んでいく。 ・地域貢献活動を再開し、「開かれた学校」、「地域に愛される学校」づくりに貢献する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な学校行事がよく実施されている。 ・久しぶりに行われた体育祭では生徒が主体的に企画運営し、素晴らしい学校応援が行われたことに感銘を受けた。 ・いじめ防止については人権教育の充実、SNSに関する問題についてはリテラシー教育の充実を図ってほしい。 ・交通事故にあわないように指導、教育の徹底を図ってほしい。 	
		生徒実行委員会を中心とした運営を実現し、生徒の自律と主体性を図る。	A					
	各種行事およびクラス活動を通して、他者を尊重し共生する態度の育成	学校行事およびクラス活動をととして、生徒に他者理解および他者を尊重する心を醸成する	B	B				
		生徒との対話を通して、他者を尊重する態度を醸成し、「いじめのない学校」を全教職員で取り組む。	B					
生徒会活動の活性化をととした、新たな久高文化の創造	生徒会会議を定例化し、多様な意見を聴取するとともに、久高のリーダーを育成する。	A	B					
	地域貢献活動を開拓し、地域に開かれた学校づくりを推進する。	B						
健康指導・環境整備	健康を維持する環境づくり	年度当初の健診を円滑に行うため、早めに計画を立て組織的に実施し、情報を共有する。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断においては授業担当者の引率の確認と健康管理課の役割分担の徹底をはかる。感染症対策については、職員や保健委員の呼びかけを徹底して換気を行う。新校舎に対応した美化点検の項目を再検討する。生徒は主体的に掃除に取り組んでいるので、より効果的な掃除道具の購入や方法を再検討する。 ・今年度はSCを効果的に活用できたので、直接担任ヘフィードバックができるように工夫したい。また、不登校等の対応で担任が抱え込まないように健康管理課の職員を中心に保健室や担任と連携していく。教育相談の内容を全職員へ周知していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ等感染対策が必要な中、十分な対応がきている。 ・訪問時に校舎がいつもきれいでしっかり清掃されている。 	
		感染症対策や熱中症対策を学校全体で行うとともに、生徒が自主的に取り組めるようにする。	B					
	主体的に環境を整える生徒の育成	教室を整え、落ち着いた学習環境を生徒自らが作れるよう美化点検を実施する。	A	B				
		よりよい清掃方法について美化委員・保健委員と協議し、学校を美しく保つ意識を高める。	B					
教育相談・特別支援教育の充実	配慮が必要な生徒の具体的な指導方法や生徒情報を職員間で共有し、協力する体制を整える。	A	A					
	スクールカウンセラーと協力し、すべての生徒が心の健康を保つための取り組みを行う。	B						

NEW セサミブラン	総合的な探究の時間の充実	「探究」にふさわしい活動内容を実施できるようカリキュラムの進化を図る。	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間の充実については、生徒の進路実現と「探究」活動を通じた資質・能力の向上とともに実現できるようなカリキュラムを目指して活動そのものの検討を行いたい。 課題研究の充実については、内容にさらに磨きをかけられるような指導体制を整えたい。 キャリア教育の推進については、図書館からの情報発信の機会を確保するだけでなく、NEWセサミブランの活動を通して自身の進路への関心を高められるような工夫を行いたい。 	
		各活動で身に付けたい資質・能力(目標)を共有し、節目ごとに自己評価、相互評価を行い、成長の実感につなげる。	B				
	質の高い課題研究発表会の企画・運営	外部業者等による講演会を積極的に取り入れ、効果的な指導につなげる。	A	A			
		1年間の研究にふさわしいテーマ設定から、外部調査(全班必須)を生かしたオリジナルの考察、提案につなげる。	A				
キャリア教育の推進	図書委員を中心に新設図書館の積極的な活用を推進し、自発的な読書の雰囲気醸成を図る。	A	B				
	進路指導課と密に連携し、一貫した指導を実施することで、進路学習の充実・進路実現のための支援を図る。	B					
英語科育成	グローバル人材の育成	大学・企業や卒業生等と連携して、英語科行事(英語研修・オーストラリア交流等)を実施し、英語科としてのアイデンティティを構築する。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 時代の変化に伴い様々な生徒の現状も踏まえながら、個性を活かすための指導や行事の内容・回数等について熟考し精選する。 校外だけでなく、全校生徒に向けての広報活動も充実させる必要がある。 オーストラリア交流や米国領事館訪問等について、更に内容を発展的なものにする必要がある。 英語多読プロジェクトにおいては、「豊かな内容とレベルで生徒の好奇心を刺激し読解力を養う」という目的に沿って、生徒への呼びかけ等、方法も考えながらしっかりと生徒に伝え、読書力を養うことに重点をおきたい。 英語外部検定試験、特に英語検定2次面接指導の効率化も課題である。 	
		NETやALT等と連携しながら、必要な英語力、異文化理解や国際感覚を身につけた人材を育成する。	A				
	積極的な学びのための特色ある授業と行事の充実	英語多読プロジェクトを継続し、生徒の好奇心を刺激し、自発的に取り組む雰囲気をつくり、読解力を養う。	B	B			
		授業を根幹として、英語科行事を通して、英語力を養うために、魅力ある授業のための創意工夫を行う。	A				
英語科広報活動の充実	中学校訪問や動画配信等により、英語科の魅力をPRし、効果的な生徒募集を行う。	B	A				
	英語科、教務課や企画振興課と連携しながら、英語科説明会等の広報活動を積極的に行う。	A					
研究・研修	職員研修の充実	本校の課題をふまえた研修を行い、教育活動の充実と指導力の向上を図る。	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修については、人権教育やICT活用に関することなどの必要な研修の機会は確保しつつ、要望のある研修を他の業務と重ならない適切な時期に計画していく。 人権教育については、来年度は回数を増やし、全学年2回実施する。生徒の人的成長を促すことができるように、より一層の研修の充実を図る。 授業評価(アンケート)では、ICT教育の定着度、協働や双方向的な授業展開に関する内容、生徒への理解確認の有無等の項目を新たに設定し、授業改善の推進を図る。 	
		校外研修への積極的な参加を促し、職員の研修意識を高める。	B				
		人権教育の内容を生徒が直面している問題を考えながら再考を続け、生徒の人的成長を促す。	B				
	授業改善の推進	各教科でICT活用の在り方を協議し、更なる活用拡大へ繋げる。	A	B			
研究授業では、多くの職員の参観ができる体制を整え、充実した合評会を行うことで授業改善の推進を図る。		B					
生徒による授業評価(アンケート)の内容を再考し、授業改善の推進を図る。		B					
企画・広報	中学生に対する広報活動のさらなる工夫	新入生アンケートによる現状把握と効果的な広報活動の実施。特に英語科の広報活動を重点的に実施する。	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動については本校生徒ボランティアの力を活かした実施ができた。また、イブニングツアーなどの実施について検討を重ねることができた。次年度は普通科のPRについてポイントをはっきりさせる必要がある。 学校要覧の内容を改善し、次年度以降の編集作業を行いやすくなるよう整理することができた。行事予定については立案時に議論を深めるために広く意見を反映できるよう検討したい。 課会議をもって、企画振興課の業務内容を整理する必要がある。 	
		学校見学会などの改善・中学生への周知の見直しをする。	A				
	儀式等の企画、立案	学校要覧、行事予定を迅速かつ正確に提示する。	A	A			
		早目の連絡と各課との調整を徹底する。	B				
	庶務関係の仕事を滞りなく行う	職員室等、環境整備を徹底する。	B	C			
		定期的に課会を実施し、共通理解を図る。	C				
B						<ul style="list-style-type: none"> 「セサミブラン」は学校の伝統になり、生徒の探究心や自立心を高めていると評価できる。 課題の調査・研究が今後の生徒の資質・能力の向上に資するよう更に内容を深めてほしい。 行動制限があるため生徒の積極的な外部調査は難しいと思うが、進路や目標に向かう力を養ってほしい。 	
	A					<ul style="list-style-type: none"> 英検受験指導やアメリカ領事館訪問、国際交流会の実施等が行われていて素晴らしい。 成果は十分上がっていると思われる。さらに前進させてほしい。 	
B						<ul style="list-style-type: none"> 研究や研修とその成果の共有は必要なことである。 先生もお互いにレベルアップを図ってほしい。 ICTの陰陽については是非徹底した教育をしてほしい。メディアリテラシーの徹底も図ってほしい。 	
	A					<ul style="list-style-type: none"> 教職員間の横のつながりは大切である。 イブニングツアーなど中学生向け広報活動がしっかりしている印象はあるが、ホームページは更新されていない部分があり、さらなる努力が必要である。 	

1学年	基本的な生活習慣の確立	久高生としての自覚を促し、落ち着いた生活習慣と学習習慣を身に付けさせる。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・出席は概ね良好であるが、そうでない生徒もいる。また、学習習慣に関しては、例年に比べ時間数が少ないというデータが出ている。進路実現のためにも日頃から生徒との対話を大切に、意識の向上を図る。 ・HRでの時間確保が難しく、進路学習とコース選択のつながりが不十分であった。また、生徒自身が予習や復習の大切さを理解できているが、実践に至っていないことも多い。継続指導をしていく。 ・業務分担は心がけているが、業務量の多さからうまくいっていない場面があるため、学年職員全体で協力して業務を進めていく。
		出席皆勤を目標とさせる。	B			
	主体的かつ継続的に学ぶ態度の育成	予習・授業・復習のサイクルを徹底させ、基礎・基本の定着を図る。	A	B		
		高大連携講座や各種セミナーおよび体験活動への積極的な参加を促し、学習意識、進路意識を早期に持たせる。	B			
チームワークの確立	周囲への感謝の気持ちと協調性の育成を図る。	B	B			
	情報交換を密に行い、協力して業務を遂行する。	A				
2学年	主体的に学ぶ態度の育成	予習・復習の徹底を図り、授業に主体的に参加する態度を身につけさせ、基礎学力の定着を図る。	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路学習についてはHR等での全体指導の時間確保が難しく、個人での取り組みになったため、目標の明確化や活動に差が出た。「キャリア活」の在り方は、次年度以降も引き続き考えていく必要がある。 ・様々な学校行事において生徒を中心に主体的に実施することができた。次年度はまずは体育祭の成功を目指したい。 ・皆勤は現在50%弱である。第一進路志望合格に向けて、ねばり強く取り組む下地として、次年度も継続課題としたい。
		進路目標を明確化させ、目標達成に向けて学習意欲の向上を図る。	B			
	挑戦する姿勢の育成	日頃から生徒による試行錯誤を重ねさせ、リーダーシップとフォローシップを発揮できる環境を整える。	A	A		
		学校行事や生徒会活動に積極的に参加させ、中核学年として学校を支える姿勢を身につけさせる。	A			
	心身の調和と人間力の育成	規範意識を持ち、自ら考えて正しく行動できる生徒の育成を目指す。	A	B		
		皆勤を目指させることによって自己管理能力を高め、精神力と体力の涵養に努めさせる。	B			
3学年	叡智を身につけて進路実現	第1志望校を明確にさせ、最後まで粘り強く挑戦させる。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の学校生活を落ち着いて過ごすことができている者が最後は学力を伸ばしているように感じる。個別に対応した指導は、柔軟にできた。 ・学校行事(体育祭)を通して、一人ひとりが自己の役割を明確にすることができ、素晴らしいものを創り上げてくれた。後輩にも背中ですることができた。 ・受験を通して、自らの将来を考える中で人間的にも成長し、言動やコミュニケーション力が向上した。 ・出席皆勤者は54%であり、目標を大きく下回った。
		個別に対応した指導を重視し、教養を身に付けさせながら学力向上を図る。	A			
	気魄を持って学校行事に取り組む	最高学年として責任を伴った行動を心掛け、後輩に対して模範となるようにする。	A	A		
		体育祭に対して、学年の一人ひとりが関わりを持ち、完全燃焼することで次へのステップとする。	A			
	誠実さを持った成人となる	成人年齢として責任ある行動に努めて、挨拶や礼儀、コミュニケーション能力を高めさせる。	B	B		
		自分の生活を律し、出席皆勤者65%以上を目指す。	C			

B	<ul style="list-style-type: none"> ・1年時に久高の伝統等を理解させてほしい。 ・1学年では自分の進路について自覚させるよう面談を常に実施することが必要だと思われる。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生は充実、成長の時期と思われる。進路指導とその確認を徹底させ、自覚を深めさせてほしい。 ・全員進路目標達成を目標にしても良いと思われる。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・久高の三大目標の充実・実現を目指す久高生活最後の1年になるよう期待する。 ・進路目標達成と共に大人としての成長に期待する。 ・安易に欠席しないように自覚を求めていく必要がある。

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症防止策を取りながら、学校行事のさらなる充実を図る。 ・生徒自身が課題を乗り越え、挑む力、積極性、協働性を身に付けることができるように様々な仕掛けを講じる。 ・職員が組織としての協体制の下生徒理解に努め、適切な支援を行うことで、生徒の自己肯定感や生きる力の伸長を図る。 ・観点別評価、パフォーマンステスト等が一層の授業改善、学習改善、生徒の主体性及び積極性の向上につながるよう検討、改善を図る。 ・自他を尊重し、自ら考え、判断・行動し、生涯にわたって主体的に生きていくことができる生徒を育成し、生徒、保護者から信頼され、「開かれた学校」、「地域に愛される学校」となるよう教育活動を展開していく。

評価項目以外のものに関する意見
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の「自立心」、目標に向かっての「努力の継続心」の指導を期待する。 ・久高生としての自覚を持たせる指導を継続してほしい。

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

65

福岡県立久留米高等学校

自己評価				
学校運営計画(4月)			評価(総合)	
学校運営方針	(1)すべての生徒が安心して学校生活を送り、確かな学力と豊かな人間性を身につけられる、「敬意と信頼」を基盤とした学校づくりを推進する。 (2)自他を尊重し、自ら考え、判断・行動し、生涯にわたって主体的に生きていくことができる生徒を育成する。 (3)指導力向上のため常に研鑽に努めるとともに、生徒の「学び」「心」「挑戦」に寄り添いながら、その成長を支援できる職員および職員集団を目指す。			
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
決定していたすべての学校行事について、新型コロナウイルス感染症防止策を取りながら、規模を縮小することはあっても、職員・生徒の協働により充実した内容で実施することができた。その過程において、生徒は学校行事の意義や目的を再確認するとともに、制限を強いられる中においても、何ができるか、どうすればよいかと、知恵を出し合い、創意工夫を凝らし、協力し合うことにより、勇気をもって課題を乗り越え、挑む力、積極性、協働性を身に付けることができた。職員は、常に生徒を見守り、必要最小限の助言や支援によって、生徒の成長を支えた。職員が生徒理解に努め、適切な支援を行うことで、生徒の自己肯定感や生きる力の伸長を図ることができた。今年度から導入した観点別評価、パフォーマンステストやキャリア活等の実施については一定の評価はできるものの、一層の授業改善、学習改善、生徒の主体性及び積極性の向上に向けて検討、改善を図る必要がある。自他を尊重し、自ら考え、判断・行動し、生涯にわたって主体的に生きていくことができる生徒	主体的に適切な判断ができる資質・能力の育成を図り、失敗を恐れず物事に積極的に挑戦させることにより、生徒の人間の成長を促す。	教育活動において、生徒が自己決定し行動する機会を積極的に設定する。 生徒理解や生徒の発達・育成に係る専門的知識を得るための職員研修を行う。 成年年齢の18歳引き下げに伴う諸問題に対して、適切に対応できる知識を付けさせるとともに、自立した大人としての規範意識の向上と判断力の育成を図る。 生徒が校外の活動をおとして他者や地域に貢献できる機会を積極的に設定する。 観点別学習評価の適切な実施をおとして、評価と一体化した指導の充実を図り、指導と評価の改善サイクルの確立につなげていく。 授業改善アンケート等をもとに教科会等で検討し、授業や課題の提示の仕方などの具体的な指導の改善に取り組む。 ICTの活用をはじめ多様な指導手法を取り入れ、学習意欲を喚起し学習内容の理解を深めるわかりやすい授業づくりに取り組み、学力の伸長を図る。 関係者の連携ときめの細かな支援の充実を図り、転・退学者数の減少を目指す。 生徒との対話を生徒理解の重要な手段の一つとして捉え、二者面談等の充実を図る。 生徒が心身の健康を維持し、澁刺とした学校生活を送れるよう支援する。 生徒の進路意識を高揚するような情報及び機会を積極的に提供し、進路について主体的に考える態度を育成する。 生徒の将来のキャリア形成に係る学力向上やキャリアデザイン等の進路課題解決に向けての支援を行う。 NEWセサミプランについて、より「探究」にふさわしい内容への進化を図る。 3年間をおとして英語科の生徒全員がCEFRのB1レベル相当またはそれ以上英語力を身につけることを目標とする。 英語科における行事やNET・ALT等の人材を積極的に活用しながら、必要な英語力と国際感覚を身につけた人材の育成を図る。 海外の学校や機関等との交流について、より発展的な内容となるよう充実を図る。		
主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善をおとして、知識・技能の習得、思考力、判断力、表現力および主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。	主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善をおとして、知識・技能の習得、思考力、判断力、表現力および主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。			
生徒理解に努め、安心・安全な学校生活を送れる環境の構築を目指すとともに、特別活動や部活動等をおとして仲間と協力して目標達成に向かう意欲と態度の育成を図る。	生徒理解に努め、安心・安全な学校生活を送れる環境の構築を目指すとともに、特別活動や部活動等をおとして仲間と協力して目標達成に向かう意欲と態度の育成を図る。			
生徒が自らの力で生き方を選択できるよう必要な資質・能力を身につけ、生徒が自分らしい生き方の実現を図るための支援を行う。	生徒が自らの力で生き方を選択できるよう必要な資質・能力を身につけ、生徒が自分らしい生き方の実現を図るための支援を行う。			
「英語を学びたい」という積極的な姿勢をさらに伸ばし、英語学習の背景にある文化に対する理解を深め、視野を広げ、国際感覚を養うことによりグローバル人材の育成を図る。	「英語を学びたい」という積極的な姿勢をさらに伸ばし、英語学習の背景にある文化に対する理解を深め、視野を広げ、国際感覚を養うことによりグローバル人材の育成を図る。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教科指導	授業改善と教科指導力の向上	授業アンケートの項目を改訂するとともにアンケートの反省を授業改善に反映し、効果を検証する。 教科の授業における探究活動の充実と総合的な探究の時間との連携ICT端末を十分に活用する。 生徒自身が学びを振り返り、学習改善に取り組むことができるよう適切な指導と評価を行う。		
	観点別評価の円滑な運用	観点別評価の妥当性及び信頼性を高めるため教科主任会や教科会議を受けて教務課で検討し改良を重ねる。		
	主体的・対話的で深い学びの実践	共通課題だけでなく、希望制(応用)のもの、自ら設定した課題などに取り組みせ、評価の項目を増やす。 予習段階での疑問点の話し合い、生徒同志の学び合い、生徒による説明やプレゼンテーションの場を増やす。		

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
	A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

進路指導	進路意識の高揚と主体的に考える態度の育成	「久高キャリア・パスポート」を作成し、生徒が先を見通し、自身を客観的に振り返る態度を育成する。 「出前講座」「卒業生講話」「社会人講話」「キャリア活」など外部とつながること で、進路意識を高める。					
	キャリア形成に係る学力向上	課外・補習については、今後必要となる学力を見据え、生徒が受けたいと思う授業を各教科で練り、実践する。 模試は、リリース後3週間以内に分析を起案するとともに、それを授業・課外・課題等に生かせる体制をつくる。					
	生徒の「学び」「心」「挑戦」に寄り添い、その成長を支援できる組織づくり	生徒の成長を軸に置き、自由に意見を交わし合える進路課の雰囲気をつくる。 調査書や推薦書等の生徒の進路に関する書類は、不備がないようダブルチェック等を行う体制を継続する。					
生徒指導	生徒にとっての居場所となれる久留米高校の実現	学業や部活動において、生徒の自己実現をサポートしていくことで、生徒の自己肯定感の涵養を図る。 転退学者「0」を目標に、生徒にとっての居場所となれる学校づくりを組織的に行う。					
	安心・安全な久留米高校の実現	生徒との対話を通して、他者を尊重する態度を育成し、「いじめのない学校」を全教職員でつくりあげる。 登下校中および部活動中の事故を未然に防ぐため、啓発・評価・改善等を積極的に行う。					
	積極的生徒指導とおした諸問題の未然防止	面談週間の設定および学年団との各種連携を通して、諸問題の芽を未然に摘み取り、早期解決を図る。 生徒指導課を中心とした学年サポート体制を構築し、発生した諸問題に対し組織的な対応を図る。					
特別活動等	主体的に適切な判断ができる資質能力の育成	成年年齢引き下げに伴う諸問題に対し、個人で対応できる力を身に付けさせる。 新たな校則について、生徒自らで遵守する態度を育むことで、久高生としての誇りを培っていく。					
	各種行事およびクラス活動とおした誠実な心の育成	生徒主体での学校行事の運営とおして、久高に対する愛校心の醸成を図る。 学校行事および日常のクラス活動とおして、他者を尊重する心と共同する態度を育成する。					
	生徒会活動・部活動とおした久高文化の創造	ボランティア活動とおして、地域に根差し地域と共生を図る久高生を育成する。 生徒会会議・部長会議等を定例化させ、久高のリーダー育成を図る。					
健康指導・環境整備	安心・安全な学校生活を健康に送れる環境づくり	健康診断の計画を早めに立てる。また、組織的に協力体制を整え、円滑な健康診断を実施する。 保健委員会を中心に感染症対策や熱中症対策を行い、生徒が主体的に「健康」に対して取り組める環境づくりを行う。					
	主体的に学習環境を整える生徒の育成	美化点検や掃除道具の管理などの美化委員の活動を行い、落ち着いた学習環境をつくれるようにする。 新校舎に対応した清掃方法を美化委員・保健委員と協議し改善するとともに、学校を美しく保つ意識を高める。					
	生徒が澁滞とした学校生活を送れるための心の健康を維持できる支援の充実	学年・養護教諭・SCとの連携を密に図れる体制を整え、生徒の情報を全職員で共有できる環境をつくる。 保健室の利用状況を学年職員と共有し、生徒の状況把握に努める。					
NEW セサミプラン	系統的な探究活動の充実	生徒一人一人の探究活動を推進するために活動内容を見直し、カリキュラムの改善を行う。 年間を通じて身につけたい資質・能力(目標)を共有し、活動ごとに内容のフィードバックを行う。					
	「問い」を深める調査・研究の計画・運営	ICT機器を活用した事前学習を充実させ、調査活動の質の向上に努める。 テキストや資料を活用し、深まる「問い」の設定や外部調査による学びとおして、質の高い考察や提案につなげる。					
	図書館の活用を通じたキャリア教育の推進	図書委員を中心に図書館の利用を促進する企画を計画し、読書に親しむ意識の向上を図る。 進路部内外と連携し、一貫した指導を実施することで、生徒の進路実現に向けたキャリア教育の充実を図る。					

英語科育成	グローバル人材の育成	英語科行事(英語研修・オーストラリア交流等)を実施し、レベルアップを目標に英語科としてのアイデンティティーを構築する。 NET・ALTや大学・企業と連携しながら、必要な英語力、異文化理解や国際感覚を身につけた人材を育成する。					
	積極的な学びのための特色ある授業と行事の充実	英語多読プロジェクトを継続し、生徒の好奇心を刺激し、自発的に取り組む雰囲気をつくり、読解力を養う。 授業を根幹として、英語科行事を通して、英語力を養うために、魅力ある授業のための創意工夫を行う。					
	英語科広報活動の充実	英語科の特色や行事等を校内・校外に向けて積極的に広報活動を行う。 英語科、教務課や企画振興課と連携しながら、英語科の魅力をPRし、効果的な生徒募集を行う。					
研究・研修	教員研修の充実	本校に必要な内容の研修を実施し、教育活動の充実と指導力の向上を図る。 若年教員研修の充実を図り、これからの教育の担い手を育成する。 校外研修への積極的な参加を促し、職員の研修意識を高める。					
	授業改善の推進	全学年、年に2回実施する人権教育の内容を再考し、生徒の人間的成長を促す。 各教科でICT(生徒1人1台端末)の活用の在り方を協議し、さらなる拡大へつなげる。 研究授業では、他教科も含め多くの教員が参観できる体制を整え、授業改善の推進を図る。					
情報課	情報セキュリティ環境の改善	県の方針、規約を周知し、安全な利用の徹底を行う。 情報リテラシーを醸成する教育を促進する。					
	職員のネットワーク機器利用環境の改善	ポータルサイト、ネットワークサーバーの整備を行う。 学校ホームページの刷新、および職員による編集へ移行を進める。					
	ICT機器の利用環境改善	chromebookの利用管理と利用の促進を図る。 教室のICT環境の整備と整理を行い、誰もが使いやすいスタンダードを構築する。					
企画・広報	学校内外へ向けての広報活動の充実	本校生徒の姿や、学校の活動を積極的に発信する。 本校生徒によるボランティアの機会を増やし、広報に生かす。					
	儀式などの企画、立案	儀式の要項作成は各係との調整を徹底し、意見を反映させる。 職員、生徒へ早めに計画を提示することで生徒指導を行いやすくし、儀式的の教育的側面を重視する。					
	職場環境の整備	職員室のネットワーク機器や印刷機器、机などの利用環境を整える。 業務の整理と効率化を図る。					

1学年	基本的な生活・学習習慣の確立	久高生として、落ち着いた生活習慣と学習習慣を身につけさせる。			
		継続した取組による力をつけるため、出席皆勤を目指させる。			
	主体的に学び 挑戦意欲をもつ態度の育成	予習・授業・復習のサイクルを確立させ、基礎学力の定着を図る。			
学校行事やボランティア活動、校外活動等への意欲的な参加を促し、人間的成長を図る。					
安心・安全な人間関係の育成	言葉の力を意識し、伝えたい言葉を正しく発することを意識させる。				
	SNS等の使用モラルも含めて、いじめのない人間関係を構築させる。				
2学年	校訓「誠実・叡智・気魄」を体現する生徒の育成	ワンストップ挨拶を徹底し、感謝の心を育成する。			
		服装などの身だしなみ、日々の言動を常に省みさせ、久高生としての自覚をさらに促す。			
	基本的な生活習慣・学習習慣の徹底	240名全員の出席皆勤を目標とさせる。			
予習・授業・復習のサイクルを徹底させ、基礎・基本の徹底および応用力の養成を図る。					
学校の中核の担い手として活躍できる人材の育成	リーダーシップ・フォロワーシップを様々な場面で発揮させる。				
	1年生を導き、3年生を後押しすることにより中核として学校活性化に尽力させる。				
3学年	第一志望の進路実現	第一志望の実現に向けて見通しを持って取り組ませ、粘り強く最後まで挑戦させることによって精神的成長を図る。			
		受験は団体戦であることを意識させ、授業や課外、行事を通して学年全体で頑張れる集団づくりを目指す。			
	体育祭での完全燃焼	最高学年として全員がリーダーであるという意識を持ち、状況を的確に判断しながら主体的に行動できるようにする。			
高校生活で学んだことの一つの集大成として体育祭を位置づけて完全燃焼させる。					
社会に通用するたくましい人材の育成	皆勤を目指させることによって社会人としての基礎となる自己管理能力を身につけさせる。				
	成人年齢にふさわしい挨拶や礼儀作法の徹底と、コミュニケーション能力の向上を目指す。				

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ ・ ・

評価項目以外のものに関する意見